

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102087		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム八景水谷		
所在地	熊本市北区八景水谷1丁目5-1		
自己評価作成日	令和5年12月5日	評価結果市町村受理日	令和6年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年12月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通のアクセスがしやすい反面リスクの高い立地条件となっているが、いかに過ごしやすい環境を提供出来るか工夫をしている。玄関には顔認証システム導入し防犯も含めて安全対策をとり環境を整えている。更に本人が培ってきた、今までのライフスタイルを合わせたケアを提供し健康面に関しては、入院・治療の必要性が、発生がしても施設内での適切な医療を提供出来るように医療と連携を密に行っている。また、ご本人様の精神的負担や認知症の進行を実践として、ユマニチュードケアの取り組みを行っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設よりの経年による医療依存度(経管栄養等)や高齢化・介護度の高さも見られるが、職員の細やかな気配りや傾聴・寄り添いの姿勢に、理念である“笑顔・感謝・思いやり”の実践と言える。入居者を守るという使命感から外部との交流を避け、室内での“笑运动会”等の集団ケアや個別ケアとして趣味活動や得意分野等を発揮させており、生け花やレース編み等が室内環境の彩りとして生かされる他、家族も巻き込むことで入居者のやる気を引き出している。管理者の変更という過渡期中で、職員からの管理者を盛立て、お互いが助け合い、風通しの良い関係は何事も言いやすい環境にあり、法人の持つ機能を生かした食支援や毎月の研修等ケア向上に努めるホームであり、感染状況により地域の中での生活が拡充されることと期待したい。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議において理念の共有に努め実践に繋がるように行い見やすい所に提示している。	開設当初から掲げる“笑顔 感謝 思いやり”を理念として、「入居者の為に良いケアをしましょう」を目標に気持ちよい挨拶から一日をスタートしている。入居者の日常に焦点を当て、入居者と目線を合わせたケア等職員のケアの振り返りの指標として捉えている。家族への情報発信(できたこと・良かったこと等)が入居者のやる気や潜在能力を引き出し、毎日の変わらない日常に感謝を持ったケア姿勢に理念が息づいていることが表われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの延長線上で外部との交流が出来ていない。	感染症対策を徹底することで入居者を守るという使命感の中で、外部との交流は控えている状況にあり、日々の体操等の他、笑運動会等と銘うった活動等レクレーションを充実させている。	地域の情報等(老人会や自治会)は地域包括支援センターから得られており、ホームでも関われる情報をリサーチすることから再始動いただき、入居者も地域の一員として活動に参加できることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議で認知症の方の事情や身体拘束について報告し、現在行っている支援を伝えている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年4月より出来ていなかったが、令和5年10月より開始している。施設の取り組み内容については、書面で郵送している。	運営推進会議はコロナ禍での書面審議から対面開催になり、家族の生の声や地域包括支援センターからの情報提供等も挙る他、感染症対策への感謝の声や最近の様子を知りたいとする家族の参加も多くなってきている。この会議をテーマを持って意見を交わすことで、更にサービス向上に繋がることと期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困りごと等こまめに連絡を取り、入院発生時など事業所の事情やサービスの取り組みを伝え協力関係の構築に繋がるよう取り組んでいる	運営推進会議を通してホームの状況を発信する他、管理者変更や指定更新等不明な点は行政担当部署へ出向きながら相談する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議などで身体拘束をしないケアについて学びの場を設け、実践に活かせるよう取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会において、毎年振り返りながら拘束をしない為の目標を掲げている。毎月の研修の他、職員の尊厳ある言葉使いには常時気を付けるよう投げかけている。身体拘束等廃止指針を掲げ、転倒リスクの高い場合にはセンサーを付けることもあ、り家族への説明と同意を得ている。入居者の動き(多動等)を把握し、見守りやタイミングを見ながら声を掛ける等束縛の無いケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議などにて虐待についての議題を上げ学び細心の注意をし、防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット会議等で時間を設けて学び活用出来るように支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明責任は果たしている。また、改定の際には、書面で説明を行っている。遠方の方は郵送を行い電話で説明を行い理解を得た上で同意を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き意見を述べる機会を設けています。	入居者には日々の関わりの中で把握するとともに、家族の訪問時に聞き取りした意見や要望等職員と共有する体制として、日常動作の中で歩行訓練を取り入れる等下肢筋力の低下を危惧する家族の声に答えている。運営推進会議も問題提起の場として生かされている。	家族会の開催や、家族との交流する機会として入居者と家族とのキーボードによる音楽活動等感染症の状況を見ながら開催できるよう検討いただきたい。今後も家族の忌憚りの無い意見や要望等を把握しながら、ホーム運営に反映されるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議などで意見や提案を聞き反映させている。	毎月の全体会議及びユニット会議により困り事や良いケア事案等を出し合い、担当制として役割を分担しながらも協力しあい、物品等の不足は管理者を通して上申する体制としている。職員の家庭の都合による勤務等職員同士が融通し合う等風通しの良い関係にあり、管理者も職員のストレス等にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務に関しては希望を取りやすくし、子育て支援等にも配慮している。向上心を保てるように各自の目標を把握し、職場環境を整えられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や実務者研修及び権利擁護研修への参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本部での施設サービスの会議や外部の研修への参加をし、サービスの質の向上につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活歴などの情報交換を行い不安なくすごして頂けるように配慮し関係づくりに努めている。日々の生活の中でより良い関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に相談を受け、情報交換を行い安心感を持って頂けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスについては、遠方の家族もおられる為、帰省の際に意見交換や携帯や電話、メールなどを活用し支援内容などを把握している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らす家族のように一方的にならないように意見を聞きながら、利用者にお応じた関わりの中で関係の構築につとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症の時期以外は自由に面会をして頂いている。生活の様子をお伝えし、馴染みの物や季節に応じた衣類等を準備をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所の近所に住まれていた方は、行きつけの美容室へ行かれ馴染みの関係が継続出来るようにつ	在宅時の地域からの訪問や、馴染みの美容室の利用(家族の支援)、自宅で正月を迎える入居者等馴染みの関係性を継続させている。入居者の得意分野や特技等(生け花やレース編み等)等も継続して支援し、笑運動会と銘をうった活動等感染症対策でできなかった現状に室内での行事を充実させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員や利用者同士との馴染みの関係づくりを行っている。また、テーブル等せきの配置への配慮に努め共に支え合う関係づくりに繋がるように物的・人的・空間の環境を整える工夫を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も病院等との情報交換を行ったり相談支援が必要な場合は、フォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とコミュニケーション取りながら、不安や思いなどを拾い上げ、家族から聞き取りを行いニーズを把握出来るように努めている。	日常の関わりの中で、若かりしことや昔のこと等回想法を駆使して拾い上げ、家族の訪問時に代弁する等入居者の思いに応えている。意思疎通や発語困難な状況には行動・表情などで把握したり、はい・いいえで答えられる様な声かけや、耳の聞こえを把握し、ジェスチャーや筆記等非言語的コミュニケーションにより本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や環境を知り入居前までのサービスの経験などを情報を把握し生活の中に取り込んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方については、認知面の低下や周辺症状に合わせた残存機能を活かす場を設け、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットにて介護計画含めお一人お一人の現状を話し合いながら意見や工夫を行い改善をすることにより介護計画に反映している。	本人・家族の意向を把握し、担当職員によるアセスメント、3ヶ月毎のモニタリング、家族や主治医の意見を踏まえプランを作成している。集団ケアや個別ケアを組み込んだプランや、経管栄養への変更の伴う見直し、体調変化には随時重度化や看取りについて家族との話し合い等個々の変化に応じたプランが作成されている。介護プラン及び週間サービス計画書等家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議等での情報交換により実践内容やプランの内容をその都度検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族サービスについての要望が多様化している為、柔軟な支援に繋がるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室の利用行っている。他にも熊日新聞の配達も活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続や訪問診療、自分に合った病院の選択を自由にして頂いている。訪問看護による支援もあり、医療面の充実を図っている。	これまでのかかりつけ医を家族や職員で受診対応している。また、3医療機関による訪問診療として、夜間対応が可能な医療機関や訪問看護は職員にとっても心強いものとなっている。歯科は毎週(月)訪問により希望や必要な方を診察されている。看護・介護職員は申し送りノートで情報の共有を図り、必要に応じた速やかな受診など適切な医療支援につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケース記録は看護師も一緒に緑色で記入している。看護職員や介護職員も同じ申し送りノートにて情報交換を行い連携を図っている。必要な受診などはかかりつけ医へ連絡し適切な医療を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力体制を密に取りながら入退院時のサービス担当者会議などを通して病院関係者と関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期については、書面化し入居の際家族の意向を確認をしている。また、必要に応じて再度確認を行い支援が出来るように努めている。現時点では最終的に医療での治療を望まれているケースがあり、施設での終末期は実践できていない。	重度化対応、看取りに関する指針を作成し、入居時と体調変化に応じ家族の意向を聞き取っている。家族の気持ちは変化する事もあると捉え、その時々で寄り添って行くことを大切にしている。看取り支援前に方向性を共有し、支援後は職員へのアンケートにより振り返ることとしている。この一年は看取り支援は行われていない。	管理者は感染症の中にあっても、本人・家族の望まれる最終の付き添いなど、可能な限りでき得る支援に努めたいとしている。今後も入居者・家族の意向に沿いながら、日常を大切にしたい支援の継続に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による緊急時の指導や急変時の対応などはユニット会議などで話し合いを行う。対応の仕方などは看護職員からの直接の指導もあり実践的に行い周知に努めた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に関しては、担当を決め消防訓練を自主訓練を2ヶ月に一回、総合的に年一回としている。防火訓練だけではなく防災も含め取り組んでいる。	担当者を中心に2ヶ月に1度、防火、防災を含め自主訓練と、今年度は5月に総合訓練を実施している。総合訓練では職員の声掛けが反省点にあがっている。備蓄は本部で備え、ホームでは最低限(水・カセットコンロなど)の物を確保している。BCPの作成は法人で行っており、職員間での共有も図られている。	いざという時、災害備蓄の場所(法人)については、距離などから再検討されることが必要と思われる。裏口に置かれた土嚢は不要時に撤去するなど、今後も安全面から定期的な確認が期待される。また、地域との協力体制についても今後の取組が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけなどコミュニケーションの取り方についてもユニット会議など問題がある場合検討している。	言葉遣いや声掛けなどコミュニケーションの取り方については、ユニット会議で検討や共有を図っている。呼称は基本的に苗字としているが、反応などから下の名前でも対応している。広報紙は配布やホーム内に掲示も行われており、家族の了承を得ている。管理者は職員のメンタル面や尊厳も重要な点であるとし、指導やアドバイスをする際は、場所や間を取って行うこと、お茶を飲んでもらうなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当者を決めニーズに合わせた細やかな対応が出来るようにユニット会議等で再度問題提起を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	排泄も個別にて対応し食事時間も本人の希望に合わせて対応している。入浴に関しても希望に合わせた対応が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣服の調整や化粧道具も揃えお出かけの際はお化粧をして出かけている。マッサージなども取り入れ対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は朝食のみ授業所で準備している。好みや食事形態などを工夫しその方に合った内容を提供している。能力的に手伝いを希望された方に応じた後片付けなどをお願いしている。	朝食はホームで準備し、昼・夕の主、副菜やおやつは法人厨房で調理されたものを受け取りに行っている。嗜好調査の代わりに日常会話の中で「ご飯は美味しかったですか。」など聞き取りしている。また職員は弁当等を持参しており、同じものを摂ることはないが味見をした中で気づいたことを厨房に挙げている。食形態も嚥下力に応じてミキサー食やソフト食(法人厨房)で提供している。	干し柿や大根、梅干し漬けなど入居者の出番を用意したり、おやつレクの年1回実施している。今後おやつレクの回数を増やすことで入居者の楽しみにつながると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携しその方に合わせた食事を提供している。食事・水分摂取量は日計表を活用している。更に体重増減に関しては、測定が全員出来るように工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの励行を行い定期的訪問歯科を導入し定期的な治療及び助言を頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては、その方の状態に合わせたケアを行っている。基本的にはオムツ使用を控え、日中はトイレやPTイレを使用頂くように配置している。	入居者の表情や動きなどから推察し、声掛けや誘導、自立の方の見守りなど個別に支援している。殆どの方がリハビリパンツを使用されているが、オムツや、布パンツで過ごされる方もおられるが、日中はトイレでの排泄を基本とし、夜間のみ使用される方のポータブルトイレはその都度処理を行うことで臭気等に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握により好みを把握し個別の飲み物を準備することなど工夫を行っている。就寝前の水分補給も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の要望に合せ対応している。入浴時の保湿クリームの塗布を行い保湿対策を行っている。	週2回の入浴を職員体制や入居者のタイミング、朝風呂を好まれる方もあり、午前、午後で支援している。拒否をされる方には起床のタイミングなど本人と職員のコミュニケーションで無理なく入ってもらうようにしている。菜の花ユニットは一般浴であるが、四つ葉ユニットにはベッドバス(機械浴)が備わっており、身体状況に応じ使用されている。季節湯(菖蒲・柚子)の継続や食事で提供されたみかんの皮を干し、入浴剤として使用するなどホームの工夫が聞かれた。入浴後は保湿として個別の処方されたクリームを湿布している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた生活習慣を大切に、ご自身の馴染みの枕や布団や毛布を準備して頂いている。ラジオやCDラジカセを活用して音楽療法も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員の管理と介護福祉士の連携により4重チェックを実施している。病状変化や内服が変わった際には、記録や各ユニットにある申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に合わせた嗜好品やレクリエーション、役割を持って頂き気分転換に繋がるように行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みのある場所など家族様の協力の元外出されている。また、周囲の環境変化もあり健康面の配慮が必要なためお一人お一人に合わせた外出は行っていない。	感染症への対応から外出を控える状況が続いており、季節ごとのレクリエーションや壁面制作などの充実に努めている。家族の協力としては馴染みの理容室に外出された方や、今冬正月には長期外泊の予定者もおられ、家族、入居者双方が楽しみにされている。	コロナ禍で入居者の外出への意欲も減少していると思われ、今後は交流室の活用や「行きたい。」「出かけた。い。」と言ってもらえるような外出の工夫に期待したい。また計画されていた筋力をつけるための家族との近隣公園への散歩が感染症の為中止となっている。気候の良い春にでも実現が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点では、お金の管理は、預かり金にして、対応しており、個人で持たせることはしていない。また、家族の希望もあり本人に持たせるとトラブルになる可能性もあり希望されない家族もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を活用したり、メール等で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生面や安全面に配慮し、照明の調整や空調、室内の温度などにも配慮している。	玄関から入ると明るい交流室には、職員が持ちよった季節の植物を使った飾り物や一年間の行事写真が丁寧に掲示されており、家族等来訪者の楽しみとなっている。季節の草花などを入居者も一緒に生けたり、飾ったりすることで季節や外の雰囲気を楽しむことが出来ている。左右に配置されたユニット名も草花の名(四つ葉・菜の花)がつけられており、入居者はお隣さんとして歩行訓練を兼ね行き来されている。そのため歩行の妨げになるものが無いよう十分配慮している。職員の環境整備への工夫や個々のペースに応じた声掛けや誘導も居心地の良さにつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間を分けており気の合う方同士で過ごして頂けるようにしている。生活環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や(仏壇・位牌・本。ぬいぐるみなど)持ち込んで頂けるようにしている。	ホームにはベッドやタンスが用意されており、馴染みや本人の好きな物を持ち込んで欲しいと伝えている。明るい居室の入り口には表札代わりに、それぞれに花をかなで表記や折り紙で表した部屋も見られた。入居者の中には自分で生けた花を飾ったり、テレビを持参され、好みの番組(NHK・バラエティなど)をゆっくり見られる方もおられるようである。コロナ5類移行後も感染症対策を継続しており、衣替えなどは担当職員が中心に行っている。	花の折り紙が難しい場合には、写真などを代わりに掲示することで、全入居者、家族にとっても喜ばれるものと思われる。取り組みに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、廊下の長さも確保されており自主訓練としての散歩や歩行訓練を行っている。家事支援としては、掃除や洗濯干しや洗濯物たたみなどを行い今まで培ってきた日々の暮らしの中の雰囲気に触れて頂いている。		